

# 中国の大学生の自尊感情と愛着スタイルとの関係に関する 青年心理学的研究

人間発達教育専攻

学校心理・発達健康教育コース

学籍番号：M11039C

氏名： 彭鳳飛

## 問題と目的

乳幼児は親との間で保護—被保護の相互作用を通して、大人に信頼と親密の感情を抱くようになる。そして内的作業モデルを形成した。内的作業モデルを基礎に、対人的情報を知覚、評価、さらに未来の予測を立て、自己の行動のプランニングを行っていく(Bowlby1969)。安定な愛着スタイルと不安定な愛着スタイルは愛着行動にどのような区別があるのか。不安定な愛着スタイルを形成した青年はどうすればいいのか。

愛着スタイルが安定する人は自己と他者を明確に分離したものとして、相互に自律し尊重しあった存在として認識し適切なバランスを維持する能力があると考えられる。自己と他者を相互に尊重しあう前提には、自己を尊重することが重要だと考えられる。そのため、自己概念に関わる自尊感情を取り上げる。

本研究では、愛着スタイルと関わる要因を明らかにして、より安定な愛着スタイルを促進していく上で重要な方策が見えてくる。本研究の第1の目的は、自尊感情に着目し、大学生を中心に、自尊感情の高低の程度により、愛着スタイル不安定側面に対する影響を検討することである。また、第2の目的はきょうだいの有無による、大

学生の愛着スタイルの差異を明らかにすることである。

## 方法

対象：中国海南省のA大学に在学する学生253名（男性56名 女性197名）が本研究の協力者として参加した。

材料：質問紙調査が実施された。愛着測定(中尾・加藤,2004)の成人版愛着スタイル尺度。自尊感情測定尺度(RosenbergのSelf-Esteem Scale)の邦訳版である自尊感情尺度。

## 結果

### 愛着スタイル尺度の因子分析

愛着スタイル30項目に対して主因子法による因子分析を行った。複数バリマックス回転による因子分析を行った。「見捨てられの不安」( $\alpha = .87$ )「親密性の回避」( $\alpha = .73$ )の2因子が抽出された。信頼性係数は全体で $\alpha = .84$ である。

### 自尊感情と愛着スタイルとの関連

愛着スタイル尺度得点を従属変数とし、きょうだいの有無と自尊感情水準を独立変数とする二要因分散分析を行ったところ、「見捨てられ不安」において、自尊感情水準に主効果が見られ( $F(2.247)=6.69, p<.001$ )、L群>H群という関係で有意差が認められた。「親密性の回避」におい

て自尊感情水準に主効果が見られ (F(2.247)=7.50, p<.001), L群>M・H群という関係で有意差が認められた。しかしながら、きょうだいの有無の主効果は見られなかった。

愛着スタイル尺度得点を従属変数とし、性別と自尊感情水準を独立変数とする二要因分散分析を行ったところ、「見捨てられ不安」において、自尊感情水準に主効果が見られ (F(2.247)=8.40, p<.001), L群>H群という関係で有意差が認められた。「親密性の回避」において、自尊感情水準に主効果が見られ (F(2.247)=8.40, p<.001), L群>H群という関係で有意差が認められた。しかしながら、性の主効果は見られなかった。

## 考 察

### 自尊感情と愛着スタイルとの関連について

本研究の分析結果より、自尊感情高得点群の愛着スタイルの中に見捨てられ不安と親密性の回避得点有意に低く、自尊感情の高さが愛着スタイルの安定に関連しているといえる。遠藤(2006)は、自尊感情の高い人は自分の個人的な要請を重要他者に理解してもらえということ を明らかにした。そのため、今回の結果により、自尊感情の高い人は自分のことを一般他者に受容してくれると確信しているといえる。一方、遠藤(1999)は自尊感情の低い人は対人関係に対する評価の低さを自己に帰属させ、受容期待を低下させることを指摘した。自尊感情が相対的に低い人は、見捨てられ不安の傾向がある。そして、高い自尊感情は愛着不安定を改善する要因

であると推察された。ここから、不安定な愛着スタイルを改善するためには、自尊感情を高めるように働きかけると有効であることが推測できる。

### 愛着におけるきょうだいの有無について

きょうだいの有無に愛着スタイル得点の有意差は認められなかった。このことから、きょうだいの有無と愛着スタイルに直接的な関連はみいだせなかった。中国では伝統的な「家」の意識がまだ強く残っていると推測できよう。一人っ子政策が実行されている中国には、大学生はいとこがいる。そして、同世代のいとこがきょうだいの役割を果たすと考えられる。従って、一人っ子政策によりきょうだいの不在を補うためにいとこ頻りに付き合う結果として、一人っ子と非一人っ子の愛着スタイルには差がないと言えるだろう。

### 愛着における性差について

性別に愛着スタイル得点の有意差は認められなかった。青年期は友人関係を中心とした対人関係の比重が大きくなる。中国の大学生は親元から離れて寮生活をする。4年間の寮生活を順調に送るために、男女ともは対人関係を大切にしている態度があると考えられる。そこで、男性は他者に対する「拒否」が低くなり、女性は「見捨てられ不安」が低くなるであろう。

主任指導教員 浅川 潔司

指導教員 浅川 潔司